

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## “テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実特別版”

『月刊現代 - 私はなぜ「タブー」に挑んだのか - 』

第9回

『週刊現代』に続き『月刊現代』もJR東日本の革マル浸透問題を告発した。本紙は筆者の了解を得て、驚くべきこの事実をシリーズで紹介することとした。

### 大塚、清野両氏のJR東日本現経営陣は、松崎の影に怯えつつも密かに最後の抵抗を試みていた。

「これらの事件はいずれも未解決で、犯人は分かっていません。しかし松崎氏の“宣戦布告”後に起こったこれらの怪事件に、葛西さんやJR東海以上に恐怖を抱いたのは、実はJR東日本の経営陣だったのです。松崎という男をここまで肥大化させたのは、彼の背後にある『革マル派』という暴力装置に怯えた、JR東日本の旧・現経営陣の“保身”以外の何でもないのです」（JR東日本関係者）

だが、ちょうどそのころ、大塚、清野両氏のJR東日本現経営陣は、松崎の影に怯えつつも、密かに“最後の抵抗”を試みていた。「そのころ会社側は既に組合に人事権の容喙を許していたのですが、大塚さんと清野さんは『経営側の専権事項の“最後の砦”である管理者教育だけは絶対に組合に干渉させてはならない』と、仙台などの地方支社で、大卒の幹部候補生を中心に管理者教育を極秘に行っていたのです。管理者教育のメインテーマは『JR革マル派問題』と組合対策でした」（『管理者教育』を受講した中堅幹部）

ところが各地方支社では、JR東労組に知られることなく行われたこの管理者教育も、東京地域本社（現在の東京支社）で実施されるに至ってJR東労組側に発覚。JR東労組から徹底的に追及され、中止に追い込まれる。そして97年、新たにJR東労組公認の「リーダー研修」として再開されたが、「労使妥協の産物」になってしまったという。

「それでも会社側は、組合には内緒で当初の目的を全うしようと、小林峻一氏が書いた『JRの妖怪』などを教材に、幹部候補生に『JR革マル派問題』の危険性を認識させようとしていた。しかしそれが組合側に再び発覚するに至って松崎の逆鱗に触れ、2ヶ月、計4回に及ぶ激しい団交（団体交渉）の結果、『リーダー研修』の中止に追い込まれた。この『リーダー研修』の中止で、JR東日本経営陣の敗北は決定的になったのです」（同前）

これ以降、JR東日本経営陣が、この異常な労使関係の改革に動いた形跡は、残念ながらみられない。彼らはいつになったら、乗客の安全を脅かすこの「JR革マル派問題」に決着をつけることができるのか。そしてマスコミはいつまで、この問題をタブー視し、沈黙を続けるのだろうか。